

GOTO TSUSHIN

発行 / 滋賀医科大学同窓会湖医会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL 077-548-2074, FAX 077-548-2094
E-mail:koikai@koikai.org
http://www.koikai.org/

湖都通信 43号

Since 1987, Editor Takehiro Inui,
Co-editor Takashi Kadowaki,
Tetsunobu Yamane
印刷 / 昌栄印刷 2003.9.30

第2回 『湖医会賞』授賞式と 受賞者による記念講演会

日時 ; 10月25日(土)

午後1:00 ~ 3:30

場所 ; 臨床講義棟第3講義室

1:00 ~ 開会

『湖医会賞』授与式

1:30 ~ 受賞者記念講演会

青木裕彦氏

「介護保健施設の今後」

茶野徳宏氏

「恵まれた医局!？」

3:30 ~ 閉会

5:30 ~ 受賞者を囲む会(学内で)

季節はずれの台風・冷夏そして厳しい残暑が終わり、ようやく秋本番を迎えました。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか?
2003年度第17回(総会)は、来る10月25日(土)の午後4時から滋賀医大臨床講義棟第1講義室で開催されます。(関連記事7・10頁)
今総会は、役員改選の年に当たっております。現在会長初め8名の副会長(看護学科1名)及び82名の幹事(うち看護学科14名)の先生方が同窓会活動を担っています。ご自分も同窓会活動の一助を担おうと思われる方をはじめ、一人でも多くの会員から

湖医会奨学金制度発足にむけて



の積極的な参加をお待ちしております。
さて「湖医会」創立20周年記念事業として懸案されてきました『湖医会奨学金』制度がいよいよ今総会で承認後スタートします。2003年度奨学生募集要項はおおよそ次の通りです。対象は、医学科5回生と6回生および看護学科3回生と4回生。月額20000円無利息の貸与で、期間は1年間です。総会で承認されれば今年の4月に遡って支給されます。(右記参照)『奨学生願書』等応募手続は、総会承認後、湖医会事務局までおたずねください。それに伴い会員の皆様からの「湖医会奨学金」へのご支援をお願いいたします。詳しくは、ホームページおよび湖都通信44号に掲載予定です。
今年度も総会に先立ちまして、昨年より始まりました「湖医会賞」の第2回授賞式および受賞講演が催されます。総会終了後に学内若鮎祭模擬店におきまして、『湖医会賞受賞者を囲む会』も予定しております。ぜひ総会並びに受賞講演にご参加ください。若鮎祭も開催中です。秋の夜長学生時代を懐かしむ一日を過ごされてはいかがですか!

湖医会奨学金制度(案)

- < 応募対象 >
滋賀医科大学医学部医学科5回生・6回生
および看護学科3回生・4回生
- < 採用決定 >
書類審査後「湖医会奨学金運営委員会」にて面談・選考され、会長が決定し、幹事会の承認を得る
- < 奨学金の額と貸与 >
(1) 奨学金の月額 : 20,000円
(2) 形式 : 貸与形式、無利息
(3) 貸与期間 : 4月から翌年3月までの1年間
- < 推薦者 >
湖医会正会員1名の推薦を必要とする

* 総会出欠はがきは 10月22日(水)必着で!

主な記事

私の地域医療..... 2
自分の情報を発信しませんか..... 3
『湖医会賞』を受賞して..... 4 ~ 5
学生のページ / 若鮎祭..... 6

議事録(総会資料)..... 7
関東支部会報告記..... 8
看護学科交流懇談会..... 9
LITTLE WINDOW..... 10

国立長寿医療 センターに むけて



国立療養所中部病院 内科(老年科)
遠藤英俊(医、2期生)

滋賀医大を卒業後、小生は名古屋大学老年科に入局し、大学院をへて、米国国立老化研究所に2年留学しました。帰国後、愛知県大府市にある現中部病院(写真1)が、いずれナショナルセンターに昇格することが内定されたため、大学の医局から自分の意思で移動しました。この10年間

写真1 国立療養所中部病院



老年医学の基盤づくりに、臨床と研究に携わってきました。いよいよ他の国立病院、療養所が独立法人化する前の平成16年3月1日にナショナルセンター化をはたし、国立長寿医療センター(仮称)に生まれかわること

になります。名古屋では名古屋学閥があり、医局に所属して、大学院を修了したといっても滋賀医大出身ということで厳しいこともありました。しかし小生がめざすのは老年医学の確立であり、高齢者の健やかな生活、医療を守るという使命があります。これまでには介護保険関係で厚生労働省のいくつかの委員会に参画し、介護保険の基礎づくりをしてきました。今は老年科医として臨床を行う傍ら、痴呆症に対する回想療法や芸術療法などをひろめ、痴呆症の進行遅延に関する研究を行っています。

私たちがめざす長寿医療は急速に進行する高齢化の中で、適切かつ迅速に確立が迫られている医療です。長寿医療は高齢者本人の健康寿命の延長、QOLの改善等効果を引き出し、家族等の負担を軽減し、医療費や介護費用の適正化、高齢者の社会貢献の促進、高齢社会の活性化に寄与します。

長寿医療の主たる分野は身体的自立を阻害する骨粗鬆症・骨折・寝たきりに対する医療、精神的自立を阻害する痴呆に関する医療と、それらをささえる高齢期に発生する各病態の治療、生活機能の維持として感覚機能、口腔機能、摂食・排泄機能に関する医療が含まれています(図1)。同時に、各分野毎に先駆的・先進的医療、標準的医療、在宅医療が求められます。また、最終的には終末期医療の標準化も求められます。

国際的な視点で見ても、世界で最初に高齢社会を経験する日本にとって、良質な長寿医療の確立は世界に対する日本の使命と言えます。同時に、そこから生まれる成果は一種の知的財産や商品とも考えられ、長寿医療は一種の先行投資とも言えると思います。その結果、今後高齢化をむかえるすべての諸外国に対して、日本の多大な貢献を約束できることとなります。是非今後ともインターネット(<http://www.chubu-nh.go.jp/>)などで当院の活動をみていただき、滋賀医大においても高齢者医療の確立発展に寄与していただければ幸いです。

最後に滋賀医大について、独立行政法人になっても、さらに地域にねぎし、特徴ある臨床と研究、経営的にも発展させていただきたいと期待します。高齢者医療が一つのキーワードかもしれませんが、それには研究費が必要です。私どもの長寿医療関係には厚生労働省主管の厚生科学研究費の中に長寿科学総合研究費と長寿医療研究委託費という二つの大きな研究費の枠組みがあり、両者とも毎年公募されています。前者は毎年平均で約10倍から20倍の倍率ですが、分野によっては比較的通りやすい分野もあります。後者は基本的に当院を中心に班を組織しているところです。私自身、身分不相应な研究費をいただき、いくつかの研究班を組織しています。先生方も是非アプローチしていただければと思います。私自身も滋賀医大の発展に少しでも貢献できたらと思いますが、後輩が世界にはばたく環境を整えることが大学の使命でもあると思いますし、さらに我々卒業生が滋賀医大の出身であることを誇りに思えるような大学に発展していただくことを祈念いたします。

図1 ナショナルセンター化をめざす長寿医療のフレーム

Successful Aging	
身体的自立	精神的自立
骨粗鬆症 骨折(寝たきり)	アルツハイマー痴呆 脳血管性痴呆
高齢期に発生する各病態の治療、生活維持の機能	
先駆的医療、先進的医療、標準化、在宅医療、終末医療	
十分な基礎研究と臨床研究	

インターネットの普及と情報収集・発信の変化

～自分の情報を発信しませんか～

滋賀医大医療情報部 教授

永田 啓 (医、2期生)

ちょっと周りを見渡せば

最近、インターネットが、かなりのいきおいで普及してきました。大学のまわりも、関電系とNTT系の両方の光ファイバーがつながるようになって、家でインターネット環境がすごく早くなっています。大学から一般のホームページに接続するより、自宅から接続の方が早いぐらいです。日本中で、こうした高速のインターネット環境が普及してきました。また、携帯電話を通話に使うのと同じように、メールを使うことも普通になってきました。以前は、学生を中心に使われていた携帯電話のメールも、今では、仕事に、家庭に、ごくあたりまえに使われています。

こうした、インターネットや携帯メールの普及は、社会における情報の伝達を変化させています。学問の世界でも、遺伝子研究などを契機にインターネットの利用が進み、プライバシーを確保するためには、1秒でも早くインターネット上に情報を載せる必要が生じてきています。インターネットでしか、投稿を受け付けない学会も現れ、あきらかに世界は変化してきています。

大学からの情報発信はというと

大学からの情報発信も、変化しています。印刷物では、どうしても情報が遅く古くなるため、リアルタイムに情報発信するために、インターネットを使うようになってきているのですが、それとともに、経済的に非常にきびしくなってきた状況では、情報発信はお金のかかる印刷物や郵送から、インターネットを使ったホームページによる情報発信・メー

ルによる連絡に変化せざるをえないといった側面もあります。また、個人レベルでも、インターネットなどさまざまな方法を使って、新しい情報を常に調べ、情報を選別・利用し、情報を発信することが、これからの学者・大学教官に求められるようになってきています。教官の公募なども、公平にかつ広く人材を求めるために、インターネット上で情報を発信する大学がかなり多く、それをまとめたホームページが作られています。 <http://www.umin.ac.jp/rocols/> を見てみてください。

滋賀医大の教官公募も、公募決定後すぐに大学のホームページに掲載するとともに、こうした共通のサイトにも掲載しています。 <http://www.shiga-med.ac.jp/bosyu.html> (滋賀医大の公募ページ) また、教官選考の時にも、対象者のホームページを調べたり、インターネットを使って世界的な評価を調べるなどといったことが普通に行われています。

ホームページで自己発信

インターネットは混沌としていて、情報も玉石混淆ですが、そうした情報の中から必要な情報を見つけ出し、自分自身をインターネット上に情報発信する事が、今後求められているようです。

自分のホームページを作っておられますか？ 湖医会もインターネット上に情報発信しています。 <http://www.koikai.org/> ぜひ、ここもご覧下さい。もし、希望があれば、ホームページ作成講座をやりますので、湖医会までご連絡ください。

高齢者ケアの質的向上を目指して

医療法人湖青会 社会福祉法人湖青福祉会 理事長 青木裕彦（医、1期生）



このたび第2回湖医学会賞を授与いただき光栄に存じ上げますとともに心より御礼申し上げます。この度の受賞は高齢者介護の仕事に滋賀医大卒業生として県下にて比較的早く開始したことを評価していただいたものと心を新たにいたしております。

私どもは平成9年4月に老人保健施設『ケアセンター志賀』をオープンし施設ケアを始めました。定員50名でショートステイ、デイケア30名、訪問看護ステーションを併設しており、滋賀県初の診療所併設型の老健で現在、約370名の利用者に在宅や施設で介護保険を利用していただいております。現在入所されている利用者はほとんど要介護4、5の重度化の要介護認定者で施設サービスの重度化が問題となってきたり介護保険が指すところの在宅復帰が困難になってきて

おります。また全国の調査でも施設サービスを利用しておられる入所者の8割に痴呆がありこれからの高齢者介護は、痴呆高齢者対応のハードとソフトでなければならぬと思います。痴呆高齢者は環境の変化に弱く、集団介護や大規模施設にはなじみにくく、周囲の環境、対応の仕方によって痴呆が悪化することもあり、私どもの施設の痴呆専門棟にキッチンや畳の間の造設、松の個人浴槽を取り入れる事で、家庭的な環境整備の改修をしております。

平成12年に志賀町で県下2番目の高齢者グループホーム志賀の里を、平成13年に大津市で初の高齢者グループホーム志賀の里2ユニット(9名X2)と痴呆専用デイサービス定員10名を開設しました。グループホームでは小規模な居住空間、なじみの人間関係、家庭的な雰囲気の中で、住み慣れた地域での生活を継続しながら、ひとりひとりの生活を支援していくもので、この介護の方法は、ユニットケアに繋がっております。

本年9月に大津市のご推挙もあり唐崎に県下初の全室個室ユニットケアの新型特養ケアタウンからさきをオープンします。在宅介護支援センターやヘルパーステーション、50床のケアハウスも併設した高齢者福祉複合施設です。最近臨床医学ではエビデンスが当たり前のこととなってきたりありますが、高齢者の介護の現場は未だ3K(経験、勘、コツ)の世界で、特に痴呆性高齢者のケアは未だ発展途上でケアの標準化・方法論の確立・介護職員の質の向上・人材育成が課題であります。『ケアタウンからさき』では、質の高い人材の育成に取り組み、龍谷大学

の社会学部福祉系学科との連携も視野に入れ、保健、医療、福祉の専門職の連携を深めていきたいと考えております。

これからの10年後団塊の世代が高齢世代の仲間入りをし、3人に1人が65歳以上の超高齢社会を迎えます。厚生労働省はこれからは従来のような大規模な施設を造るのではなく、小規模、多機能サービス拠点を中学校区、小学校区に整備する計画です。

ユニットケア、高齢者介護、痴呆介護、施設運営に興味のある方は、ご一報ください。

このたびはまことにありがとうございました。

社会福祉法人 湖青福祉会
ケアタウンからさき
大津市見世1丁目17-1
(077)511-6222

医療法人 湖青会
ケアセンター志賀
滋賀郡志賀町高城260-1
(077)594-0110

恵まれた医局?!

滋賀医科大学 臨床検査医学講座



茶野徳宏

(医、10期生)

にも恵まれています。学生時代、実習は

昨年、湖都通信で研究を紹介させていただきました。本年は湖医会賞までいただく運びとなり本当に感謝しています。

前号では湖医会賞の選考書評がありましたが、感謝の気持ちでいっぱいになりました。渡辺会長のコメントには不覚にも涙を浮かべてしまいました。恥ずかしいので部屋の端で見つからないようにしていましたが、「こんなにいろいろ分かってくれる人も居はるんや」と思いました。推薦をいただいた笹原教授(富山医科大学)、九嶋助教(本学病院病理部)とともに、もう一度お礼を述べたいと思います。

皆さんには私の研究環境は「恵まれないなかつた」と映っていたようですが、むしろ、かなり恵まれている方で、自由に研究ができますし、人の関係

研究もスマートからは程遠く、泥臭い体力勝負の仕事が得意です。何百個も遺伝子をスクリーニングしていったり、イオンキューターいっぱい数十億個も細胞を増やして蛋白分析したりとかです。

先生には飲んだ後泊めてもらったり、二日酔い用の変な??酵母を飲ませていただきもしました。学生から質問を受ける立場になって、改めて感謝しています。今は何とか先生方に追いつけるように頑張っています。

学生らしく、遊び・クラブはたくさんしていました。先日、偶然卒業アルバムを見るのがあったのですが、ちゃんと3つのクラブ、ハンドボール部、陸上部、スキー部の写真に笑って写っていました。全部体育会系でした。成績がたいしたことのないかわりに、体を動かすことが好きだったんです。体力がついていた分、仕事してからは助かっています。

医者、研究者はしんどい仕事も多いんですが、何とか乗り切ることができません。しんどかったこと、うまくいかなかったことが身につくものです。大会前に練習して苦しかった、勝てずに仲間と一緒に泣いた、飲みつぶれたこと、全部いい思い出になるのと同じです。仲間も知らぬ間に増えていて、今も助けられています。

研究もスマートからは程遠く、泥臭い体力勝負の仕事が得意です。何百個も遺伝子をスクリーニングしていったり、イオンキューターいっぱい数十億個も細胞を増やして蛋白分析したりとかです。しかし、慣れてくるもので、頭の良くない人間には体力があつて、それでこなすのが苦痛で無くなりません。留学から帰国時(1999年)、元の教室で研究が続けられなくなったこともありましたが、これも一生涯懸命やっていると、誰かが助けてくれるもので、結局、その時から今でも佐伯教授(基礎看護学)や岡部教授(今のボス)にお世話になっていきます。当時、生活が少し苦しい時期もあつたんですが、昔の遊び仲間やクラブの先輩がバイトを紹介してくれて乗り切れました。研究もかなり苦しい時期がありました。しかし、学生時代に「遊んでいなごめんなさい」という紺谷先生(外科)に助けていただきました。またうるさい先輩(自分)にも

関わらず研究を手伝いに来てくれるハンドボール部の後輩達にもとても感謝しています。神様はよく見ていてくれて、一人でしんどい時、それでも頑張っていると仲間の中で寂しくないようにしてくれまます。人を周りに集めてくれて仲間「がなんとか自分を助けてくれます。」

自然と「仲間」になつており、しんどいときには力になつてくれます。クラブ3つですから、人より3倍以上こういう関係に恵まれているわけです。滋賀医大のたいていのクラブは20年以上経っているのど、どのクラブもOB、現役をあわせるとかなりの人数になつていきます。20周年とかで集まつたりすると、並の医局より人が多かつたり、人間もよりvalueに富んでいて、極めておもしろい集団です。集団の中では「一生」先輩後輩の関係がついてまわるんですが、これが思うほど厳格でなく逆らつたからといって、へんぴなところにとばされたりもなく、むしろ気持ちのいいものなのです。同じしんどさを経験した「仲間」のせいなのでしょう。再会するとすぐ打ち解けて、心地良いものです。先日、ハンドボール部の西医体優勝を祝おうと神戸に行きました。が、決勝で1点差で負けてしまいました。応援に来ていたOBも学生も悔しい思いをしました。泣いて目が腫れて誰か判別できない顔になつた学生もいました。その日はみんなで深夜まで飲んで

騒いだのですが、これもあわせていい思い出。仲間です。よく考えてみてください。みんなもう素晴らしい「医局」に入って、素晴らしい仲間「に支えられているんです!」滋賀医大生になつてどこのクラブに入つたときから実はもう「医局」に属してんです。私の場合、「滋賀医科大学ハンドボール部、陸上部、スキー部」という3つの「医局」でした。どれもとても良い「医局」です。もし後輩達に伝えられるとしたら、やはり「いろんなクラブでいっぱい仲間をつくってください!」です。(勉強をしなければは...)。後者はいつからでもできるの、皆さん、こんな心地良い「医局」に入つて、できるだけ「仲間」を作ってください。

今後の展望も少しだけ書かせてください。最近自分の研究費がいただけるようになりまし。研究費をもらうと義務のように研究報告があるのですが、行くところはものすこし人ばかりで、「自分はその馬の骨だつた」とほう然としてしまいます。未熟なことを痛切に感じます。しかし、ほう然としているだけでなく、3つのクラブの先輩として恥ずかしくないようもつと精進しなければいけません。幸い「医局」の仲間には恵まれていますし、湖医会賞もいただいたように、何とか乗り切れるような気がします(樂觀的なかもしれませんが)。

最後に、忘れてました。嫁さんと子供、私の家族もこのわがままな生活を支えてくれる大切な「仲間」でした。「皆さんどうもありがと」ごさいました。

深緑の季節が終わり、木々の美しい衣替えが始まるこの季節、先輩のみなさまはいかがお過ごしでしょうか。医学をとりまく環境がめまぐるしく変化中、そのなかで何を学んでいくべきなのかを考え、我々学生一同、先輩方の伝統を受け継ぎ日々勉学に励んでおります。

さて、そんな中、我が滋賀医科大学を地域に広く発信できる大きな場である若鮎祭が近づいてきました。

今年度は、『LOVE & PEACE』のテーマの下、“世界平和を願う気持ち”や“人類愛”などを我々学生なりに考え、表現しようと考えています。そして、この学園祭を通して学生一人一人が、そして今回の学園祭を訪れてくれた人達が“人の命の大切さ”についてもう一度考えることができれば喜ばしいことだと思っています。

また、特別講演会として、昨年に引き続き「第二回『湖医会賞』受賞記念講演会」を受賞者の青木裕彦先生・茶野徳宏先生にお願いしております。その他にも皆が楽しめるような様々な新しい企画を考えております。(下記参照)

実行委員一同地域の方々には滋賀医科大学のよさを知ってもらえるよう一生懸命に若鮎祭を形作っていきこうという意気込みでありますので、先輩方もお忙しい中とは思いますが足を運んでいただけることを願っております。

若鮎祭実行委員長 西尾友宏

実行委員の面メン



10・25(土)

『湖医会賞』とは・・・滋賀医科大学同窓会「湖医会」の創立20周年記念事業のひとつとして制定されたもので、研究や学生等の教育、地域医療等の臨床・介護福祉その他領域で優れた実践を行い、医学および医療・福祉の向上に貢献した「湖医会」会員に贈られるものです。当日は授賞式に続いて、受賞者による記念講演が行われます。同窓生多数のご参加をお待ちしております。

『湖医会賞』授賞式 13:00～ 場所：臨床講義棟第3講義室

『湖医会賞』受賞記念講演 13:30～15:00 場所：臨床講義棟第3講義室

1. 青木裕彦先生(臨床・福祉領域部門)
2. 茶野徳宏先生(研究領域部門)

10・25(土)/26(日)

展示

1. 「滋賀医科大学の医療、今と未来」 両日 11:00～16:00 場所：学生食堂

先生方の紹介・“こんなとき受診してください”・最先端の治療法などの展示を行います。

2. 大島秀夫 写真展「ネパールだより ～国際医療ボランティア～」 両日 11:00～16:00 場所：学生食堂

講演会 ベシヤワール会 福本満治氏による講演会 10・25(土) 16:00～18:00 場所：臨床講義室第3(タイトル未定)

上映会 ドキュメンタリー映画「地球交響曲 ガイアシンフォニー 第2番」 時間未定 場所：臨床講義室第3

独自の世界観で生き、自分以外の生命のことを真に考え行動している人たちに映画を通して触れてみませんか？。

医学・看護体験 両日 時間・場所未定

10・25(土)/26(日)

10・25(土)

1. King of Athlete クラブ対抗(+)によるスポーツ王座決定戦！
2. 軽音 LIVE 軽音部がやってくれました！
3. アカペラ LIVE アカペラ部には新入生が多数入りました。

10・26(日)

1. ×クイズ か×か...それが問題だ...
2. お笑い LIVE 中川家、その他若手が来ます。
3. 音楽 LIVE 今年もアツく盛り上がりましょう！ など他にも盛りだくさんです

毎年恒例のフットサル、ソフトボール大会も開催いたしますので、ふるってご参加ください。

詳しくは、<http://www.shiga-med.ac.jp/wakaayu/>にて随時情報更新中！

第34回幹事会 兼 2002年度第3回常任幹事会議事録 (2003.9.2)

議事録

主に2003年度の総会に向けての話し合いが行われました。
幹事会で承認された総会用の資料を掲載いたします。

< 2003年度総会の主な資料 >

1. 2002年度事業報告

1. 湖都通信の発行・・・第40号、第41号、第42号
2. 勢多だよりの購入発送・・・第60号(会費完納者のみ)、第61号(全員)
3. 「大学フォーラム」・・・02.10.19・・・今回湖医会としては参加者なし
4. 若鮎祭へ寄付・・・'02.9 20万円寄付
5. 第2回「湖医会賞」決定・・・'03.5.17
1期生青木裕彦氏・10期生茶野徳弘氏・受賞講演は、若鮎祭にて
6. 大学幹部との交流・・・学長との懇談会を行った・・・'03.7.11 金子副会長
7. 滋賀医学国際協力会に参画・・・'03.2.1/'03.7.1 九嶋副会長出席
'03.1 10万円寄付
卒業生への寄付依頼文の発送協力 発送費 80 × 2000 = 160,000
8. 大学公開講座等への協力・・・'03.6.11・・・基準を設ける(埜田)
「医療従事者をめざす聴覚障害学生大学教育を考えるシンポジウム」への後援
9. 同期会開催 医2期生同期会・・・'03.2.15、びわこホテル(35名出席)
医12期生同期会・・・'03.2.15、びわこホテル(38名出席)
看1期生同期会・・・'03.2.22、ホテルニューサイチ(20名出席)
10. 卒業生祝賀会・・・'03.3 10万円・・・同窓会主催にて第2回目
11. 卒業式と入学式に参列・・・卒業式 '03.3.25 九嶋副会長が出席
祝賀会 '03.3.25 九嶋副会長・埜田副会長が出席
入学式 '03.4.8 金子副会長が出席
12. 新入生にオリエンテーション・・・'03.4.10 永田副会長出席
13. 新入生歓迎委員会へ寄付・・・'03.4 10万円寄付
14. 関連病院長会議に出席・・・'03.6.27 金子副会長出席
15. 第3回看護学科卒業生と学生の交流懇談会・・・'03.6.7 5万円寄付
16. 第5回関東支部会開催・・・'03.7.19(30名) 10万円補助
17. 平成14年版記念名簿発行・・・'03.3 3800部
18. 学外卒業生向けの図書館利用案内・・・今年度案内は無し
19. 特別な理由による就学困難な準会員を補助する事業

2002年度決算報告書

<収入の部>		<支出の部>	
前期繰越	2,946,145	事務費	644,292
広告料	3,880,000	会議費	69,271
本年度会費	2,307,038	記念品	154,980
	6,144,590	渉外費	35,800
カード提携手数料	96,318	名簿	2,782,987
利息(普通預金)	12	備品	75,736
利息(定期預金)	268	定期刊行物	1,471,123
雑益	126,583	通信費	399,740
特別会計より	1,500,000	寄付	558,537
		人件費	4,639,203
		退官教授祝賀費	10,000
		会員慶弔費	24,171
		カード入会補助金	15,639
		10年同期会	276,826
		支部組織補助金	100,000
		雑費	30,356
		同窓会館設立準備金	300,000
		記念事業等積立金	100,000
		湖医会賞	607,452
		次期繰越	4,704,841
	17,000,954		17,000,954

特別会計

1. 記念事業等積立金

収入の部		支出の部	
前年度繰越	1,455,876	次年度繰越	1,556,008
同窓会より繰入	100,000		
預金利息	132		
計	1,556,008	計	1,556,008

2. 同窓会館設立準備金

収入の部		支出の部	
前年度繰越	2,503,871	次年度繰越	2,804,097
同窓会より繰入	300,000		
預金利息	226		
計	2,804,097	計	2,804,097

3. 名簿発行準備金

収入の部		支出の部	
前年度繰越	2,003,369	平成14年度版発行	1,500,000
預金利息	44	次年度繰越	503,413
計	2,003,413	計	2,003,413

2003年度予算(案)

<収入の部>		<支出の部>	
前期繰越	4,704,841	事務費	400,000
(経営銀行)		会議費	100,000
(郵便局)		記念品	150,000
広告料	400,000	渉外費	100,000
本年度会費	2,100,000	備品	200,000
本年度会費	5,000,000	定期刊行物	1,800,000
カード提携手数料	100,000	通信費	400,000
		寄付	450,000
		人件費	4,500,000
		退官教授祝賀費	20,000
		会員慶弔費	30,000
		カード入会補助金	20,000
		同期会補助金(1期、11期、13期)	250,000
		支部組織補助金	100,000
		湖医会賞	1,000,000
		卒業生祝賀費	150,000
		同窓会館設立準備金	300,000
		記念事業等積立金	200,000
		名簿積立金	200,000
		調査費(保管用等)	100,000
		雑費	100,000
		予備費	900,000
		次期繰越	794,841
	12,304,841		12,304,841

2. 2003年度事業計画(案)

1. 湖都通信の発行 43号～45号
2. 勢多だよりの購入発送 63号、64号
3. 滋賀医学国際協力会に参画・寄付・・・'04.1 予定
4. 卒業式と入学式に参列
5. 新入生にオリエンテーション
6. 支部会への援助・・・'04.7 予定
7. 湖医会カードへの援助
8. 関連病院長会議に出席
9. 大学フォーラムに参加
10. 学生とのフリーターキング・・・同窓会に対する考えを聞く会をもうけてはどうか
11. 若鮎祭へ寄付・・・'03.9 予定
12. 新入生歓迎委員会へ寄付・・・'04.4 予定
13. 学外卒業生向けの図書館利用案内
14. 卒後20年同期会・・・(医3期生)
卒後10年同期会・・・(医13期生)
卒後5年同期会・・・(看2期生)
15. 特別な理由による就学困難な準会員を補助する事業
16. 大学幹部との交流
17. 公開講座の実現
18. 保育園設立準備委員会の活動・・・生協運営でできないか
19. 生涯教育
20. 卒業生祝賀会を主催
21. 第4回看護学科卒業生と学生の交流懇談会の援助
22. 第2回湖医会賞授与式・講演会
23. 第3回湖医会賞受賞者決定
24. 湖医会奨学金制度の設立および奨学金への寄付要請
25. 湖医会カードの拡充・・・湖医会カードの年会費を同窓会が負担してはどうか
26. その他

3. 2002年度決算報告・特別会計、2003年度予算案の資料は右記のとおり

4. 第2回『湖医会賞』の授賞式・受賞講演について

- ・タイムスケジュールが示された
- ・受賞記念講演会は若鮎祭実行委員と共催で行う

5. 湖医会奨学金について

- ・前回幹事会より引き続き奨学金規定の見直しを行った
- ・湖都通信(43号)・ホームページにより総会前よりお知らせとしてピーアールを行う
- ・湖都通信(44号)において奨学金の寄付依頼を行う

6. その他

- ・湖医会カード加入者の年会費の免除・・・現在は初年度のみ同窓会負担であるが全て同窓会負担とする

関東支部会報告記

vol. 5

今年で5回目の関東支部会(7月19日)は、中山理一郎氏(5期生)の司会で野崎先生を囲んで30名の同窓生が和やかなひとときを過ごしました。関東支部会とは関東近辺(愛知県から北海道までの広範囲)に在住する同窓生が年一度、講演を聴いたり情報交換や近況報告の場として開催しているものです。それまでにもこういった集まりはもたれていたのですが、1999年、湖医会の正式な支部として8期生の河崎幹男氏が中心となりリニューアルされました。湖医会からは補助金を出したり、案内状を送付するなどの援助が行われています。

全員集合!



合唱団結成?



(株)ベネッセケア
ベネッセホームくらら 大田中央

江部知子(看、1期生)



関東支部会に参加して

卒業後、今年ではや6年。上京してまだ1年弱ですが先日の関東支部会に参加させていただきました。私自身、看護師として常勤勤務したのは2年間で、大学院進学後、現在は民間企業のOLとして働いています。とはいっても、(株)ベネッセケアという場で、有料老人ホーム「くらら」の立ち上げ及び運営に携わっているので、これまでの経験は発揮できているのではと思います。

残念ながら、今年は支部会看護学科参加者が少なく、私も遅れた為、同じ卒業生に会えませんでした。早く感じて、1期生で卒業後6年。医療・福祉環境もめまぐるしく変わる今日、看護を学んだ者の中でも、様々な進路ができてくるのだと思います。新設学科における現役生への蓄積、卒業生の今後の発展の為に、関東支部会を良い機会に交流を深められればと思います。看護学科生が参加しやすいよう、医学科諸先輩方のご配慮もいただいております。関東で就職している看護学科の皆さん!ぜひぜひ、来年ご参加ください!



国際親善病院 循環器内科
中山理一郎 (医、5期生)

去る7月第3土曜日に5期生幹事にて第5回関東支部会が品川プリンスホテルの中華料理店で開催されました。この20年間毎年の行事となってきましたが、年々目的と参加者が変化してきており時代の変遷を感じるしたいです。当初の1982年頃の10年間は渋谷で8月上旬、関東の大学および病院に先発された諸先輩がたのアドバイスを伺う大学5・6年生のためとOBの親睦会でしたが、1992年頃から学生が減り、横浜主体の関東OB会になってきました。1999年頃から河崎先生のご助力にて関東支部会として品川で再出発しました。

今年のご講演はテニス部で生化学の野崎先生にお願いし、酸化酵素がいかに現在の生活に関与しているかを伺い驚きの1時間を過ごしました。精神科の下田先生、歯科口腔外科の阿部先生、5期生池本先生、ベネッセの江部さん、新卒の方々を迎え楽しい時間を過ごさせていただきました。今回連休と重なり参加できない先生方もいらっしゃったようですので、開催時期の変更を相談してまいります。

湖医会関東会事務局の皆様、ご協力ありがとうございました。

盛り上がり
ました!



関東支部会幹事の河崎氏、いつもお世話になります



少しでも後輩の役に立てたら・・・ / 先輩の本音トークが参考になりました！



スタッフのみなさん

上段左から、篠原さん・西田さん・都間さん・中出さん・有持さん
下段左から、寺沢さん・高山さん・牧村さん・車田さん・中村さん

湖医会がサポートしています・・・

看護学科卒業生には、卒業して5年経ったら「同期会」を開催しています。

医学科（卒業10年毎の同期会）に比べ異動のサイクルが早いので『5年後』を設けてほしいという卒業生の声から生まれたものです。

看護学科生の、進路の参考になればと企画された「卒業生と在学生の交流懇談会」

自分が学生の時とても参考になったから、仕事に就いたら今度は私が話してあげよう！という卒業生が増えて「看護学科の輪」が広がっています。その輪の様子を紹介します。

自分の歩む道の参考になりました

4回生 有持めぐみ

6月7日に、今年で3回目となる卒業生と在学生との交流懇談会が開催されました。様々な分野でご活躍されている卒業生の方々と在学生多数が集まり、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。前半は卒業生一人一人にそれぞれの分野の特徴などを説明していただいたり、経験談や進路を考える上でのアドバイスをしていただきました。そして後半では、卒業生の方々に職種ごとに分かれていただき、在学生が直接話のできる場を設け、相談や質問をさせていただきました。それぞれの職種の実際など、説明会では聞くことができないこともたくさん聞かせていただき、今後自分の歩む道について考える上で参考になりました。

準備にあたり、ご助言、ご協力くださいました先生方、湖医会や職員の方々、そして忙しい中ご足労いただきました卒業生の方々、本当にありがとうございました。

やって良かったと心から思いました

4回生 寺沢明子

今年も10人という多くの先輩方が、遠くは岐阜から、この日のために来て下さいました。そして看護師だけでなく他の職種の方も大勢来て頂き、4回生・3回生一同、より幅広い進路先の話聞く事ができました。

講演会では、病院の説明だけをするのでなく、実体験に基づいたわかりやすい講演をして頂き、みんな真剣な面持ちで聞き入っており、その後の交流会では、自分の希望する就職先の先輩のテーブルに我先にと集まり、どのテーブルでも先輩の話を真剣に聞き、時には笑い声もあふれ、活気に満ちていました。先輩のアドバイスや意見を聞くことで、普段私たちがだけでは答えのわからないまま話していたようなことが、はっきりさせることができたのではないかと思います。

先輩方が、交流懇談会を通して今後私たちが考えるべき事や進むべき道に光をさして下さったように感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。そして終わった後4回生だけでなく3回生からも『来てよかった！』と言ってもらい、この会をしてよかったと心から思いました。ご協力下さった先生方や職員の方々、湖医会のみなさまありがとうございました！

真剣な眼差しに後押しされ

滋賀医大病院 第2外科

藤森紀久子(看、5期生)



今年も卒業生と在学生との交流懇談会が催されることの知らせを聞き、2年前のことを懐かしく思いました。学生であった頃、ご活躍されている先輩方のお話を聞き、とても嬉しく楽しい時間を過ごせた事を思い、まだ看護師として2年目に入ったばかりの自分に、何が言えるのかは分かりませんが、少しでも後輩の役に立てたらと思い、交流会に参加しました。

先輩の前で話すのはとても緊張しましたが、真剣な眼差しに後押しされ、何か伝えたいという思いにかられるまま話したように思います。私が在学中に進路について迷い・悩み、そして進んできたこと。話しているうちに在学生のみなさんが同感してくれているのを見て、緊張がほぐれていきました。

また、今回の交流会に参加できたことは私にとっても、自分自身を見つめ直す良い機会となりました。参加できてとても良かったです。

最後に、滋賀医科大学看護学科のますますの発展と後輩達の活躍をお祈りしています。

体験談を話しました

滋賀医大 大学院生 林 裕子
(看、5期生)



私は、今回院生として交流懇談会に参加することになりました。いざ引き受けたものの、在校生の皆さんがどのようなことを聞きたいと思っているのかわからず、何を話せば良いのかずいぶん悩みました。さらに、大学院進学を考えている在学生の方がおられるかどうかもわかりませんでした。当日会場に入ってみるとあまりの人数の多さと皆さんの真剣な眼差しに圧倒され、ますます緊張してしまいました。

大学院受験から大学院生活の自身の体験を話させていただきました。第2部の進路別の交流会では、まさか私のところに話を聞きに来られる人はいないだろうと思っていたら、何人かおられたことにも驚きました。私の体験ばかりを話してしまっただけの程度お役に立たかわかりませんが、少しでも役立てば嬉しく思います。

最後に、滋賀医科大学看護学科のますますの発展と皆様のご活躍をお祈りします。

参加卒業生 (敬称略) <1期生> 中川香織・浅香恵理子(養護教諭) <2期生> 嶺井一美(教官) <5期生> 豚座里美・藤森紀久子(看護師)・林裕子(大学院生) 竜岡久枝(助産師)・林崇子(養護教諭) <6期生> 荒巻美和(看護師)・村上静香(保健師)・木曾奈央子(産業保健師)



助教授紹介

田中 逸 (6期生) 順天堂大学医学部内科学・代謝内科学 助教授



1986年3月 滋賀医科大学医学部卒業
1986年5月 滋賀医科大学第三内科研修医
1987年1月 健康保険滋賀病院内科医員
1989年4月 滋賀医科大学第三内科医員
1994年4月 東京都済生会中央病院内科医員
1995年7月 順天堂大学医学部内科学・代謝内科学講座助手
1996年4月 順天堂大学医学部内科学・代謝内科学講座講師
2002年6月 順天堂大学医学部内科学・代謝内科学講座助教授

滋賀医科大学卒業後ただちに当時の第3内科に入局し、繁田幸男先生(現名誉教授)、吉川隆一先生(現学長)、小林正先生(現富山医科薬科大学内科教授)、柏木厚典先生(現内科教授)をはじめ諸先生方からご指導を賜り、糖尿病の臨床と研究に従事していた日々がつい昨日のこのように思われます。順天堂大学の代謝内科学講座は1994年に新設された講座で、初代教授に大阪大学から河盛隆造先生が就任されました。河盛先生のおかげで順天堂大学に職を頂き、滋賀医科大学に追いつけ、追い越せをモットーに順天堂大学の若い先生方とともに診療と研究を展開してきました。母校のレベルに追いつくのは大変なことです。今後とも何卒よろしくご指導のほどをお願い申し上げます。

住所・勤務先肩書き等に変更がありましたら事務局にご一報ください

野田昌男(医、8期生)
四十の壁を超え、体力の衰えも感じつつある今日この頃ですが、自分なりに精一杯頑張っております。私のごことを知っておられて天橋立付近へ来られる方がおられましたら、御一報いただければ幸いです。与謝の海病院に勤務しています。

福田正博(医、2期生)
卒業後、阪大の第4内科の糖尿病研究室に入局し、ジョスリン糖尿病センターへの留学などずっと糖尿病畑でがんばってまいりました。H8年から新大阪の近くで糖尿病を中心としたクリニックを開業しました。現在、地域の保健センターなどで保健師さんに糖尿病の指導をしたり、市民向けの講演をしたりしています。糖尿病のホームページは勤務医時代から趣味で作って公開しています。最近更新をさぼりがちですが糖尿病ホームページの草分けです。一度ご覧ください。
http://www.nog.gr.jp



ニセ卒業生の新しい手口!
注意
業者は卒業生の勤務中に電話をかけ「滋賀医大同窓会OBの...」と名乗ります(今回は同期生の名前を利用)。そのつもりで対応していると「マンション経営の勧誘」について話し始めます。その件ならお断りを...という業者は居直る、という極めて悪質な手口です。
勤務中にマンション経営の勧誘電話
~会員からの連絡であきらかに

3つの同期会
(第17回) 2003年度 総会
日時; 2003年10月25日(土) 午後4:00~5:00
場所; 臨床講義棟第1講義室
議案; 1. 2002年度の事業報告 決算報告
2. 2003年度の事業計画案 予算案
3. 役員改選
4. 「湖医会」奨学金制度について 他
今年度は 卒業後20年 医学科3期生
10年 医学科13期生
5年 看護学科2期生です。
詳細は後日送付します。お楽しみに!
欠席される方は必ず委任状(同封のはがき)を!本人氏名をお忘れなく。22日(水)必着。

会員同士の情報交換を湖医会ホームページで... http://www.koikai.org/
パスワードを設定した会員しか入れない「掲示板」を設けてあります。ご利用ください。詳しくは事務局へ。

ご協賛 ありがとうございます
株式会社近畿予防医学研究所 / 佐野器械株式会社 / 扶桑薬品工業株式会社 (順不同)